

都議選 2017

6月23日告示 7月2日投票

最大争点 豊洲新市場

土壌汚染が深刻な東京ガス工場跡地の豊洲新市場への移転を許すかどうか。東京都議選（6月23日告示、7月2日投票）では、最大争点である築地市場の移転問題をめぐって各党の実績と政策が問われています。

食の安全を守るなら築地再整備こそ

移転中止 共産 VS. 移転推進 公明

豊洲移転の中止で巨大開発優先のゆがみを正す日本共産党か、豊洲移転推進で巨大開発優先の都政継続を狙う自民党・公明党か、選挙戦は、共産党対自民・公明の対決を軸に展開しています。

日本共産党は築地市場の豊洲移転に一貫して反対してきました。8日に発表した都議選政策では、豊洲新市場への移転をきっぱり中止し、築地の再整備に本格的に踏み出すことを打ち出しました。

共産党の都議選政策の発表を各メディアは、「豊洲移転中止最重要項目に」（朝日）、「豊洲移転は『中止』明記」（スポーツ報知）（9日付）、「築地市場の豊洲移転中止を最大の公約に掲げた」（NHK、8日のニュース）と報じました。

石原慎太郎、猪瀬直樹、舛添要一の歴代3知事を支え、一貫して豊洲移転を推進してきたのが自公両党です。自民党は機関紙「自由民主」号外（4月11日付）で、2017政策（骨子）として「豊洲



パネルを示し、日本共産党の都議選政策を発表する若林都委員長（右から2人目）ら＝8日、都庁

市場への早期移転」を掲げ、公明党は豊洲移転に向けた「3行程表」着実に推進を」（公明新聞、4月3日付）と打ち出しました。

自民党は、「地上は安全」と豊洲移転推進の旗を振る一方で、「築地市場も汚染されている」という攻撃を大々的に展開しています。

しかし、築地市場が安全なことは、80年間一度も食中毒を出さなかった歴史が証明しています。

公明党は、豊洲移転については語らず、争点ごとの作戦を展開。共産党への口汚い反共攻撃を強めています。

態度明言せぬ「ファースト」公明と連携

都民ファーストの会は、豊洲移転についての態度を明らかにせず、豊洲移転推進の公明党と選挙協力を行っています。

豊洲新市場は深刻な土壌汚染地である東京ガス工場跡地に建設され、汚染土壌は残ったまま。都は、移転の前提として、都民に約束していた二つの安全対策（①汚染土壌の完全除去②盛り土による汚染の遮断）を果たしてきませんでした。

都民の食の安全を守る立場にたてば、問題だらけの豊洲移転をきっぱり中止することこそ必要です。

共産党の宣伝や対話の中で、「生鮮食品は安全・安心でない」とだめ。共産党に頑張ってもらいたい」という声も広がっています。地上は安全」という自民党の宣伝のウソが伝われば、迷っている都民も、日本共産党支持に変化しています。

日本共産党の若林義春都委員長は9日の党と後援会の決起集会で、「最大争点の豊洲問題で対話を切り込み、暮らし・福祉の要求で支持を固めよう」と呼びかけています。